

データヘルス計画

第3期計画書

最終更新日：令和6年12月11日

百十四銀行健康保険組合

STEP 1-1 基本情報

組合コード	86058
組合名称	百十四銀行健康保険組合
形態	単一
業種	金融業、保険業

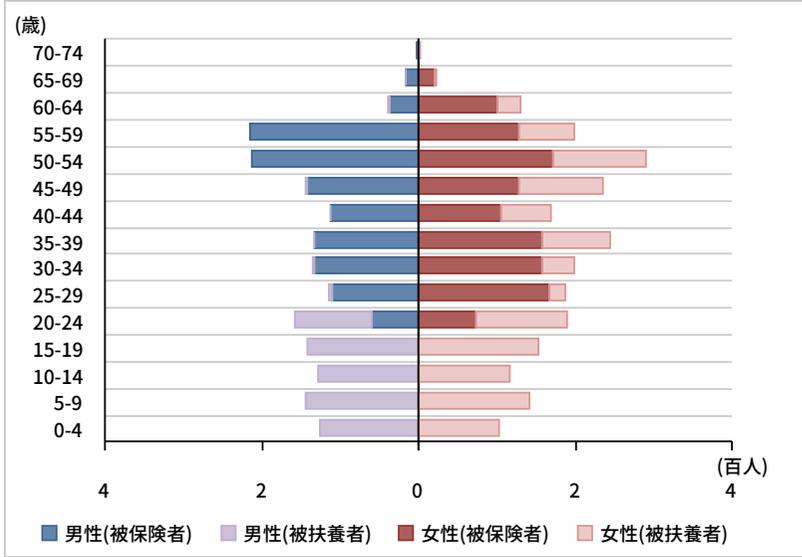
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	2,380名 男性49.2% (平均年齢44.04歳) * 女性50.8% (平均年齢42.32歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	4,205名	-名	-名
適用事業所数	2カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	1カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	98% ₀₀	-% ₀₀	-% ₀₀

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	1	-	-	-	-
	保健師等	2	0	-	-	-	-

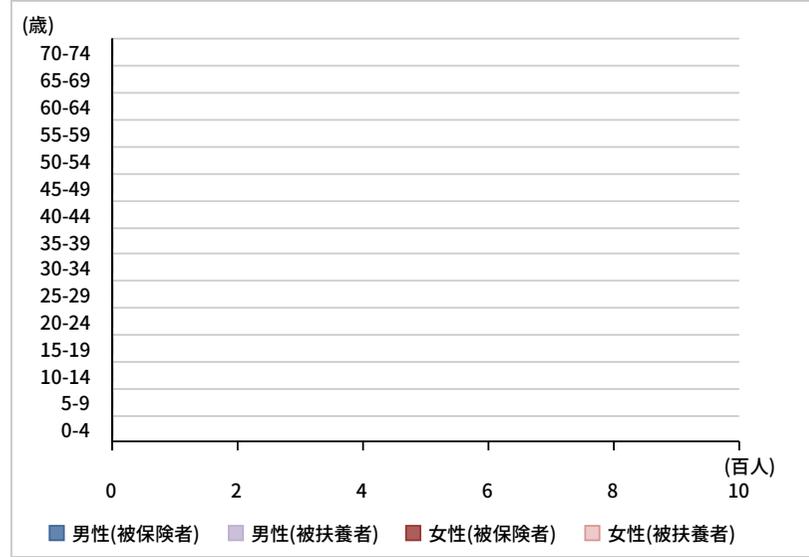
		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体	1,636 / 1,781 = 91.9 %	
	被保険者	1,357 / 1,388 = 97.8 %	
	被扶養者	279 / 393 = 71.0 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体	75 / 251 = 29.9 %	
	被保険者	75 / 234 = 32.1 %	
	被扶養者	0 / 17 = 0.0 %	

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	90,270	37,929	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	1,660	697	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	3,253	1,367	-	-	-	-
	疾病予防費	26,973	11,333	-	-	-	-
	体育奨励費	300	126	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	1,430	601	-	-	-	-
	小計 …a	123,886	52,053	0	-	0	-
経常支出合計 …b	1,425,659	599,016	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	8.69						

令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	59人	25～29	109人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	133人	35～39	132人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	113人	45～49	142人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	212人	55～59	215人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	37人	65～69	16人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	1人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	74人	25～29	167人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	157人	35～39	158人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	104人	45～49	127人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	172人	55～59	129人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	101人	65～69	20人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	125人	5～9	145人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	129人	15～19	141人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	98人	25～29	5人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	3人	35～39	1人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1人	45～49	2人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	0人	55～59	0人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	3人	65～69	1人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	103人	5～9	141人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	116人	15～19	153人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	117人	25～29	20人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	42人	35～39	86人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	63人	45～49	107人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	119人	55～59	70人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	29人	65～69	3人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

- 1.小規模な健保組合（帆保険者数2,380人、加入者数4,205人）
- 2.適用事業所のうち、1つは母体企業である。
- 3.被保険者の年齢階層は、男性は50歳代が多く、女性は30歳代が多い。（令和5年12月現在）
- 4.当健保組合には、医療専門職が不在である。

STEP 1-2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

- 1.ウォーキング等の健康増進効果に対する理解（周知）不足がある。
- 2.被扶養者の特定健診に対する理解（周知）不足がある。
- 3.罹患すると一定期間出社不可のため、季節性インフルエンザへの予防意識をより高める必要がある。

事業の一覧

職場環境の整備

予算措置なし	健康管理委員の委嘱
--------	-----------

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	ホームページ運営
保健指導宣伝	健康保険冊子

個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	ウォーキングイベント
保健指導宣伝	健康者表彰
保健指導宣伝	育児指導誌
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
疾病予防	人間ドック
疾病予防	脳ドック
疾病予防	電話・オンライン健康相談
疾病予防	季節性インフルエンザ対策
疾病予防	花粉症対策グッズ
疾病予防	救急箱配布
体育奨励	プール・スケート利用
その他	契約保養所

事業主の取組

1	定期健康診断
2	人間ドック
3	ストレスチェック
4	健康相談
5	メンタルカウンセリング
6	ウォーキングイベント

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備												
予算措置なし	1	健康管理委員の委嘱	各拠点毎に健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。	全て	男女	18～64	被保険者		・年2回、定期人事異動の際に健康管理委員に内容等の周知(5月初旬及び11月初旬)を実施済み。	・定期異動にあわせ、健康管理委員の見直しを行い、最新の職務内容等の周知を行っている。	・職務内容が年々増加しており、周知内容の改善が望まれる。	5
加入者への意識づけ												
保健指導宣伝	2	ホームページ運営	当健保組合の状況等の理解を深める。	全て	男女	0～74	加入者全員	264	人間ドック予約について等を定期的に確認および見直しを行い更改(4月・10月)各種申請手続変更(9月・11月)保険料率の変更(3月)制度変更等の更改(随時)	・全員が閲覧可能。	・HPに対する理解不足(周知不足)。	5
	2	健康保険冊子	当健保組合の健康保険等に関する理解を深める。	全て	男女	18～64	基準該当者	1,097	「社会保険のしおり」700冊改定配布者数 82名	・新規の被保険者(新入行員・パート職員)に健保組合の利用マニュアルとして配布。	・「社会保険のしおり」を更改し、更改後の主要な制度変更はHPに掲載。	5
個別の事業												
特定健康診査事業	3	特定健診(被保険者)	人間ドック受診による特定健診により、健康意識を向上させ、健康の維持・増進を図る。	全て	男女	40～74	被保険者	62,626	受診者数 1,357名 実施率 97.8%	・当組合が前立腺がん・乳がん等検診を含め、人間ドック費用を全額負担。(被保険者は事業主が一部負担)	・新型コロナウイルスの感染拡大により被保険者、被扶養者とも微増。 ・理由がある未受診者が少数だが一定数存在。	4
	3	特定健診(被扶養者)	人間ドック受診による特定健診により、健康意識を向上させ、健康の維持・増進を図る。	全て	男女	40～74	被扶養者	13,828	受診者数 279名 実施率 71.0%	・当組合が前立腺がん・乳がん等検診を含め、人間ドック費用を全額負担。	・対象者の検診に対する理解不足(周知不足)。 ・理由がある未受診者が一定数存在。 ・実施率は前年比微増。	3
特定保健指導事業	4	特定保健指導	生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善を図り、メタボリックシンドロームの減少を目指す。	全て	男女	40～74	基準該当者	1,126	【動機付け支援】 実施者数 35名 実施率 32.7% 【積極的支援】 実施者数 42名 実施率 29.2%	・全国展開の外部業者委託により、11都道府県の事業所拠点(または自宅)への訪問にて実施。	・対象者の保健指導に対する理解不足。	1
保健指導宣伝	5	ウォーキングイベント	生活習慣病対策として有酸素運動であるウォーキングを習慣として定着化させる。	全て	男女	18～74	被保険者	300	参加者数 117名 参加率 5.7% 最終達成者数 104名 達成率88.9% 平均歩行数 7,491歩/日	・各自が集計表(ウォーキングシート)により記録し、継続意欲を保持。	・ウォーキングの健康増進効果に対する理解不足(周知不足)から参加率が低下。	1
	5	健康者表彰	加入者の健康維持・増進への意識向上を図る。	全て	男女	0～74	基準該当者	1,024	表彰者数 210名	・事業所内で表彰し、モチベーションアップに寄与。	・対象者を増やすため、健康習慣(ウォーキング等)が必要。	4
	5	育児指導誌	育児情報の提供を行い、健やかな発育増進につなげる。	全て	女性	18～64	基準該当者	545	新規の配布対象者数年間 70名	・核家族化の進展による育児相談ニーズ対応	・指導誌の内容について、アンケート意見を踏まえた確認が必要。	5
	5	後発医薬品の差額通知	後発医薬品の推進を進め、薬剤費の軽減を図る。	全て	男女	0～74	基準該当者	0	年2回送付年間送付者数 128名	・定期的周知により、医療費適正化に寄与。	・対象とする疾病や削減対象額の検討が必要。	3
疾病予防	3	人間ドック	若年層(35～39歳)の健康意識を高め、各自の健康状態を把握・管理し肥満率減少等につなげる。	全て	男女	35～39	加入者全員	15,972	受診者数 347名 実施率 83.6%	・当組合が前立腺がん・乳がん等検診を含め、人間ドック費用を全額負担。(被保険者は事業主が一部負担)	・受診費用の高騰による自己負担額の見直し等が必要。	4

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者			事業費(千円)	振り返り			注2) 評価	
				対象事業所	性別	年齢		対象者	実施状況・時期	成功・推進要因		課題及び阻害要因
	3	脳ドック	脳の健康状態の確認を行い、疾病の早期発見・早期治療に役立てる。	全て	男女	50～74	加入者全員	901	受診者数 30名	・罹患率の高くなる年齢層に絞り早期発見に寄与。	・人間ドックとの同時受診による費用削減。	2
	6	電話・オンライン健康相談	健康相談により健康保持・増進を図る。	全て	男女	0～74	加入者全員	660	健康相談数 25件	・新入行員研修時に内容等を周知・説明。 ・社内報への掲載で年1回周知・説明。	・匿名・非対面であり、相談効果は限定的。 ・周知方法の検討が必要。	5
	3	季節性インフルエンザ対策	季節性インフルエンザを罹患を予防したり、症状を軽減する。	全て	男女	0～74	加入者全員	4,528	予防接種者数 2,277名	・行内イントラネット等にて周知・勧誘。	・罹患すると、一定期間出社不可となるため、予防意識の向上が必要。	4
	3	花粉症対策グッズ	花粉症の予防や症状緩和を図る。	全て	男女	7～74	加入者全員	539	配布数 449セット	・行内イントラネット等にて周知・勧誘。	・目薬、マスク等を少量配布。	5
	5	救急箱配布	疾病等への予防、救急対策として推進する。	全て	男女	18～64	基準該当者	126	新入行員配布数 54箱	・新入行員への健康に関する意識向上に寄与。	・救急箱の薬のメンテナンス等は未実施。	5
体育奨励	8	プール・スケート利用	加入者の健康増進やリフレッシュに役立てる。	全て	男女	0～74	加入者全員	95	プール利用者数 158名 スケート利用者数 65名	・行内イントラネット等により周知・勧誘。	・リピーターに比べ、新規利用者は少数。 ・利用券発行の様式見直しが必要。	5
その他	8	契約保養所	加入者の健康増進やリフレッシュに役立てる。	全て	男女	0～74	加入者全員	9	年間利用件数 23件	・県内地元の保養所中心の利用となっている。	・全国展開の保養所が先方都合により契約解除となった。 ・新型コロナウイルス感染拡大により利用低調。 ・一部施設はWEBの各種割引の進展により、補助の優位性が低下。	5

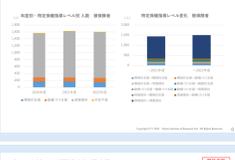
注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 34	5～6月	各担当者への定期的な周知等により、受検意識の向上を図っている。	事業所拠点によって健診機関が異なるため、取りまとめ等に時間がかかる。	無
人間ドック	安衛法に基づく健診（定期健康診断の代替として人間ドック受診を原則とする）	被保険者	男女	35 ～ 64	4～9月	各担当者への定期的な周知等により、受検意識の向上を図っている。	行員が受診しやすい時期が一致しやすく、受診時期が集中する。	有
ストレスチェック	安衛法に基づくメンタルヘルス不調の未然防止	被保険者	男女	18 ～ 64	毎年1月に実施	各担当者への周知のほか、行内通達でも個人への周知を行っている。	分析方法を検討し、分析結果の有効活用を図るべきである。	無
健康相談	健康支援の一環として実施	被保険者	男女	18 ～ 64	定期的に実施	産業保健スタッフについての周知を行い、相談を実施している。	遠隔地の事業所拠点もあり、コンタクト等がとりにくい場合がある。	無
メンタルカウンセリング	健康支援の一環として実施	被保険者	男女	18 ～ 64	定期的に実施	産業保健スタッフが介入することで、安心感が得られる。	比較的時間がかかる場合がある。プライバシー保護にも十分留意すべきである。	無
ウォーキングイベント	行員の健康増進のために実施	被保険者	男女	18 ～ 64	4月～12月に実施	各自の集計表（ウォーキングシート）を活用し、自発的な健康づくりに役立っている。	ウォーキングの健康効果をより周知し、新規参加者増加を図るべきである。	有

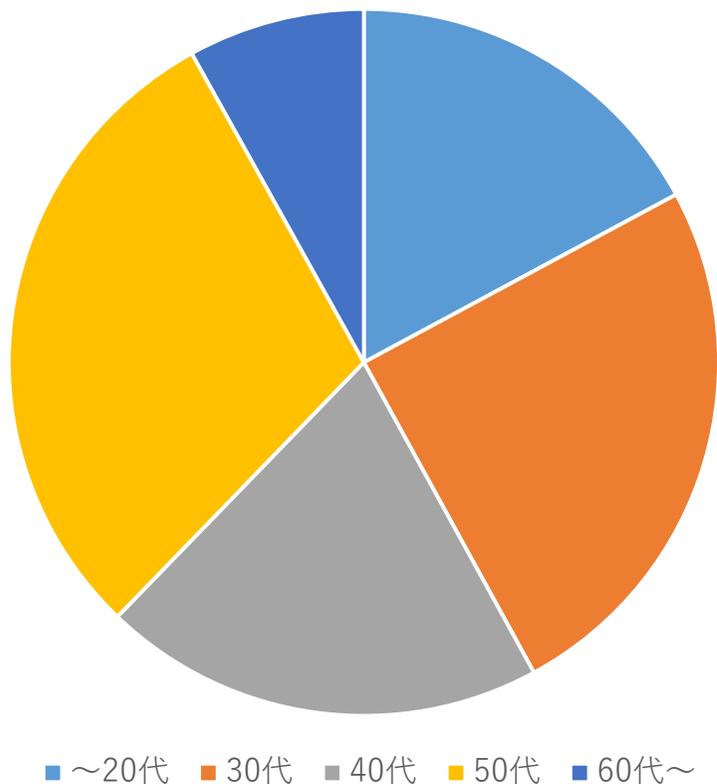
STEP 1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		年齢区分別 加入者構成	加入者構成の分析	-
イ		特定健診受診率	特定健診分析	-
ウ		問診回答別の傾向	特定健診分析	-
エ		特定保健指導実施率	特定保健指導分析	-
オ		特定保健指導レベル別人数	特定保健指導分析	-
カ		生活習慣病別 医療費	医療費・患者数分析	-

キ		メタボリックシンドローム該当者数 被保険者	健康リスク分析	
ク		年齢区別医療費総額	医療費・患者数分析	
ケ		疾病別 医療費（121分類）上位疾病	医療費・患者数分析	
コ		メンタル系医療費	医療費・患者数分析	
サ		婦人科系疾患 疾病別 医療費（121分類）上位疾病	医療費・患者数分析	
シ		BMI判定分布（健康分布図）	健康リスク分析	
ス		後発医薬品の使用数、利用率	後発医薬品分析	

年齢区分別 加入者構成 被保険者

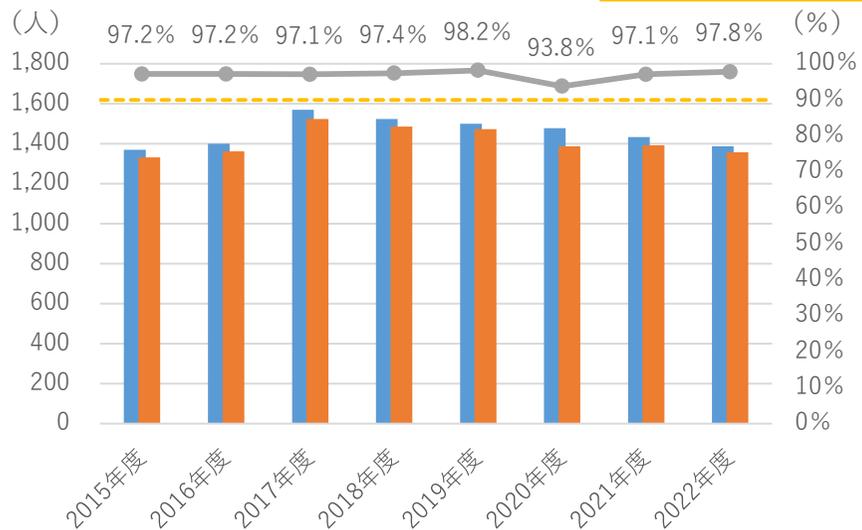


■ 年齢区分別 加入者構成

年齢区分	人数	割合
~20代	410	17.1%
30代	597	24.9%
40代	483	20.2%
50代	712	29.7%
60代~	193	8.1%

年度別 特定健診受診率 被保険者

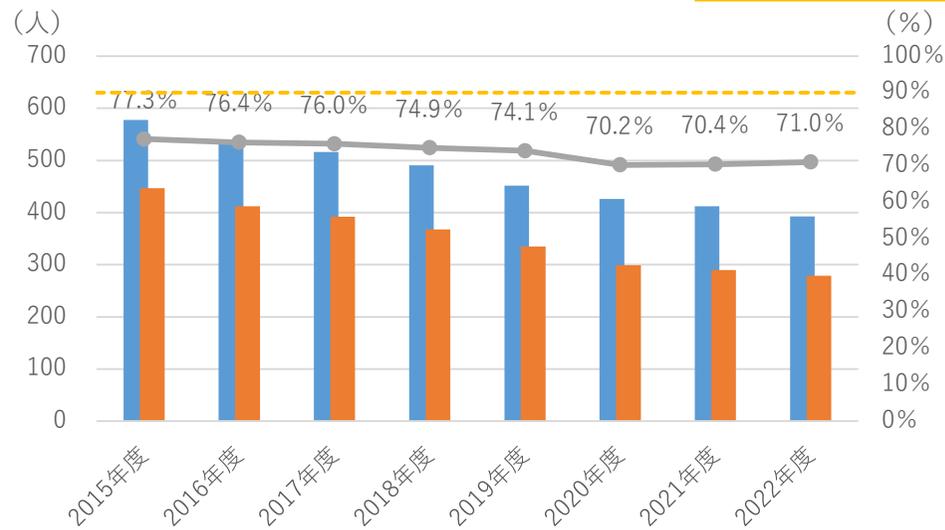
単一健保目標値：90%



■ 特定健診対象者 ■ 特定健診受診者 ● 特定健診受診率 (右軸)

年度別 特定健診受診率 被扶養者

単一健保目標値：90%



■ 特定健診対象者 ■ 特定健診受診者 ● 特定健診受診率 (右軸)

読み取れる特徴

- 被保険者の特定健診受診率は、全期間を通して90%以上で、目標達成している。
- 被扶養者の特定健診受診率は、70%台と高い水準で推移しているが、目標の90%には達していない。
- 被扶養者の特定健診対象者は2015年度から減少傾向である。

考えられる対策の方向性

- 被保険者に対しては今までの施策を改善しつつ継続する。
- 被扶養者の特定健診受診率を向上させるための施策を検討し、目標達成を図る。(特定健診対象者の減少により、一人の未受診の影響が相対的に大きくなるために、受診率向上施策の維持、改善の継続が重要となる)

実施策の例

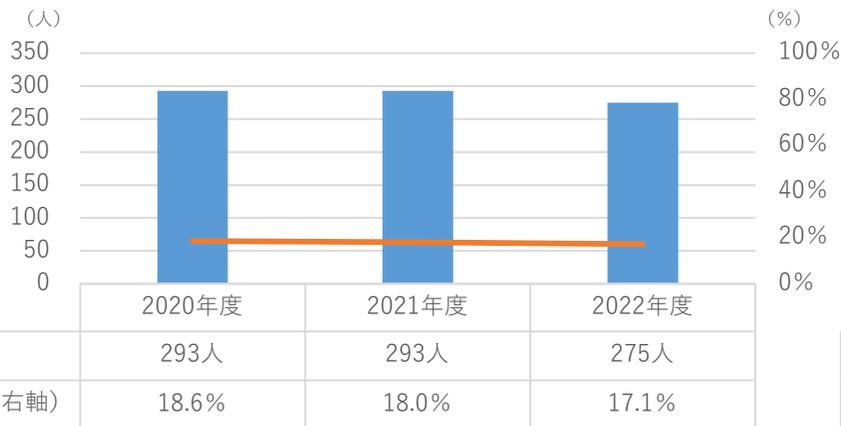
- 被扶養者向けへの受診率向上策
- 受診しやすいように、受診日や時間帯の選択肢を増やす
 - 電話による受診勧奨
 - インセンティブ企画の検討
 - 被扶養者用の受診勧奨パンフレットの制作、ハガキの送付など

データ分析 問診回答別の傾向

関係者限

問診回答 喫煙

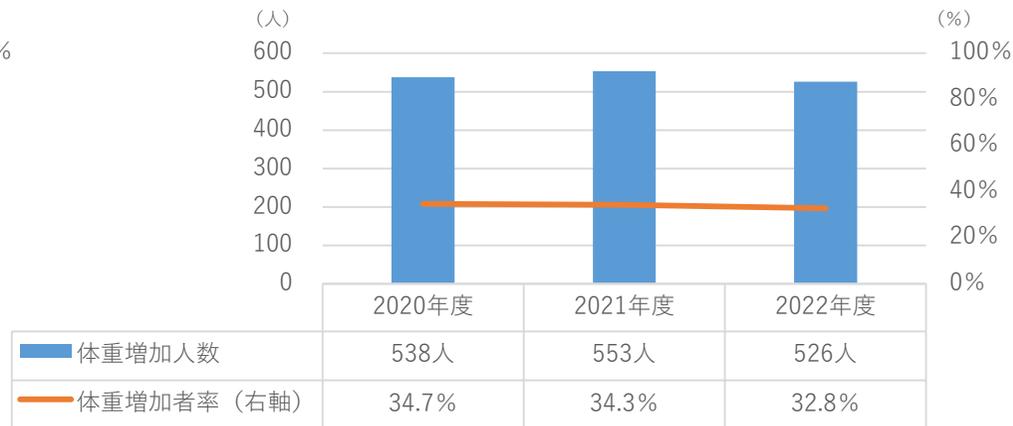
<被保険者>喫煙率の推移



■ 喫煙者数 — 喫煙率 (右軸)

問診回答 体重

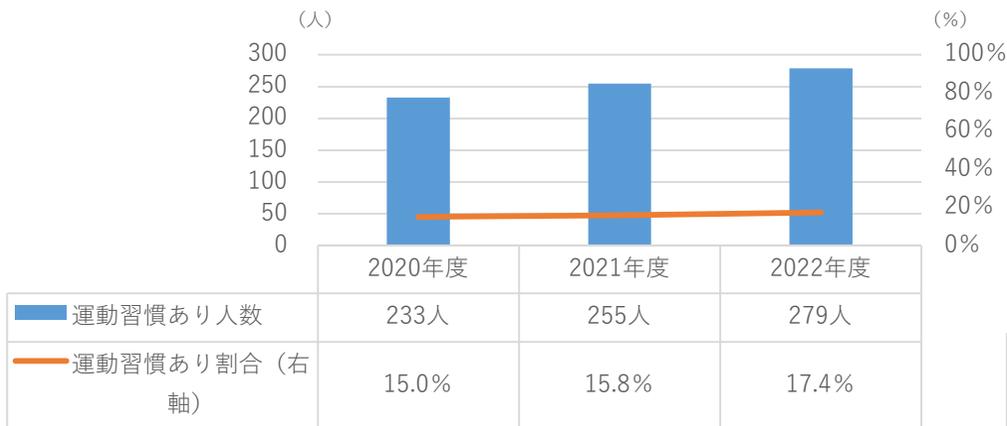
<被保険者>20歳の時から10kg以上の体重の増加



■ 体重増加人数 — 体重増加者率 (右軸)

問診回答 運動

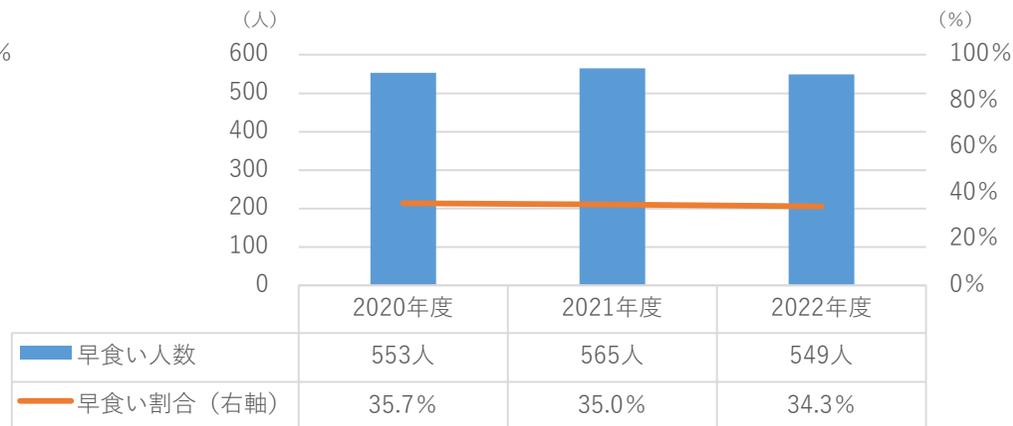
<被保険者>1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施



■ 運動習慣あり人数 — 運動習慣あり割合 (右軸)

問診回答 食事

<被保険者>人と比較して食べる速度が速い

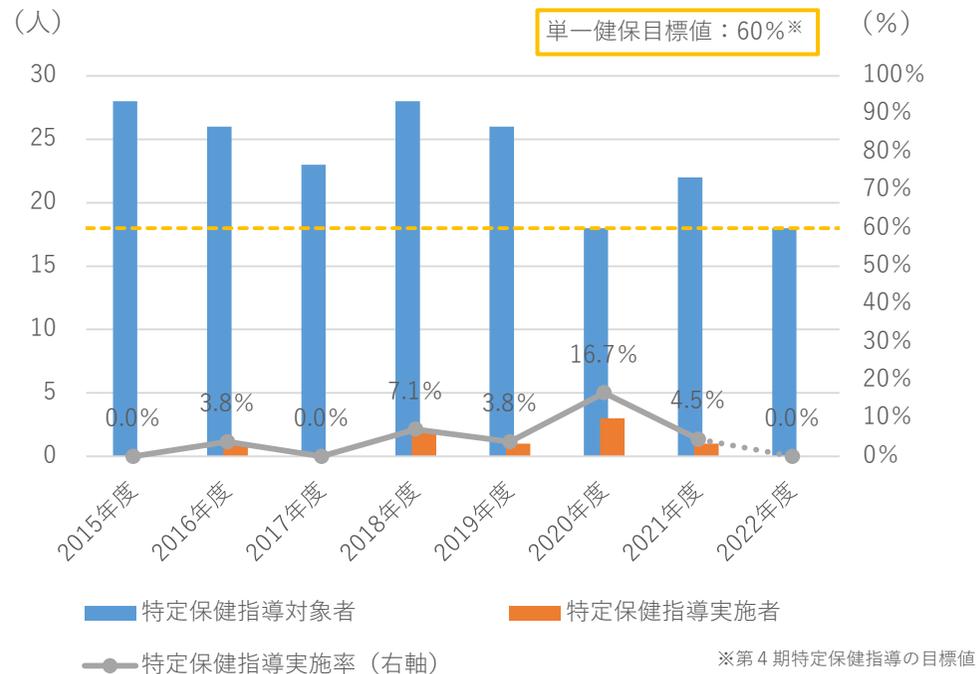


■ 早食い人数 — 早食い割合 (右軸)

年度別 特定保健指導実施率 被保険者



年度別 特定保健指導実施率 被扶養者



読み取れる特徴

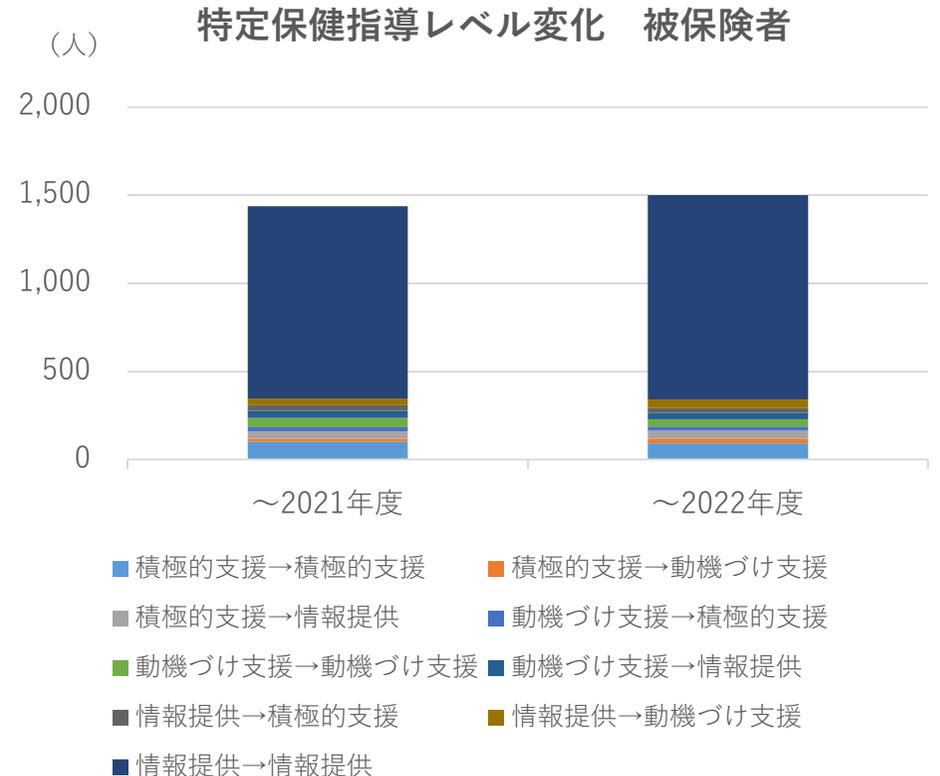
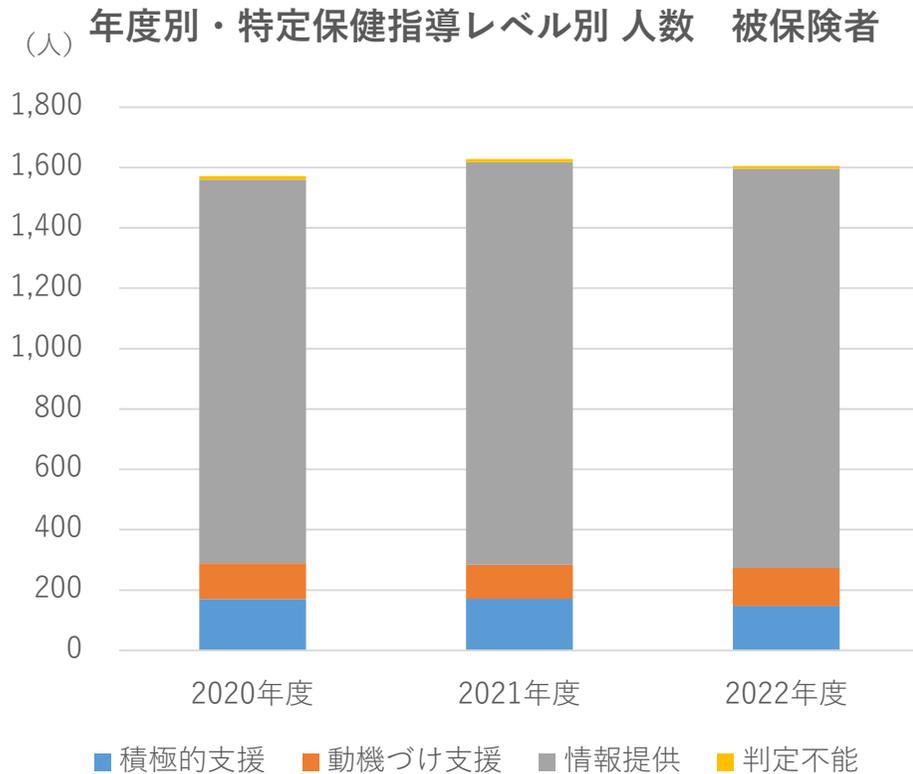
- 被保険者の特定保健指導実施率は2020年度、2021年度では20%を超えているが、他の年度では15%前後で推移している。いずれも目標の60%には達していない。
- 被扶養者の特定保健指導実施率は2020年度の16.7%が最も高く、それ以外の年度では約7%以下で推移している。

考えられる対策の方向性

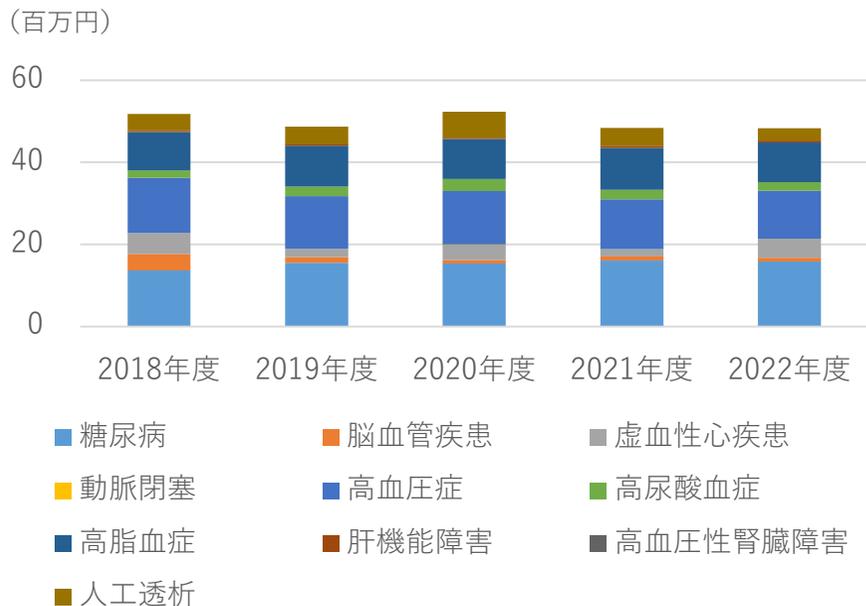
- 被保険者、被扶養者のどちらにも特定保健指導実施率の目標達成のために、指導の参加率を高める施策を中心に行う。
- 特に被扶養者に対しては、基本的な保健指導対象者へ通知、指導への参加勧奨からはじめる。

実施する施策案

- 特定保健指導への参加勧奨策
- 共通
 - ✓ 特定保健指導への理解、予約行動を促す効果的な指導参加案内への改善
 - ✓ 曜日、時間帯の拡大など、指導を受けやすい環境整備
 - 被保険者向け
 - ✓ 事業主を通じての参加勧奨
 - 被扶養者向け
 - ✓ 対象者個別への電話勧奨



年度別・生活習慣病別 医療費 組合全体



年度別・生活習慣病別 患者数 組合全体

疾病名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018-2022年度比 (%)
糖尿病	418	456	442	500	500	119.6%
脳血管疾患	42	41	31	46	38	90.5%
虚血性心疾患	97	93	94	105	98	101.0%
動脈閉塞	0	0	1	0	0	#N/A
高血圧症	341	355	341	344	369	108.2%
高尿酸血症	132	142	141	149	149	112.9%
高脂血症	468	490	507	536	564	120.5%
肝機能障害	78	76	76	106	113	144.9%
高血圧性腎臓障害	5	8	9	9	8	160.0%
人工透析	1	1	2	1	1	100.0%

読み取れる特徴

- 生活習慣病における医療費総額は一定水準内で増減をしつつも、概ね横ばいである。
- 医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。
- 高脂血症、肝機能障害の患者数は他の疾患と比較して増加率が高い。

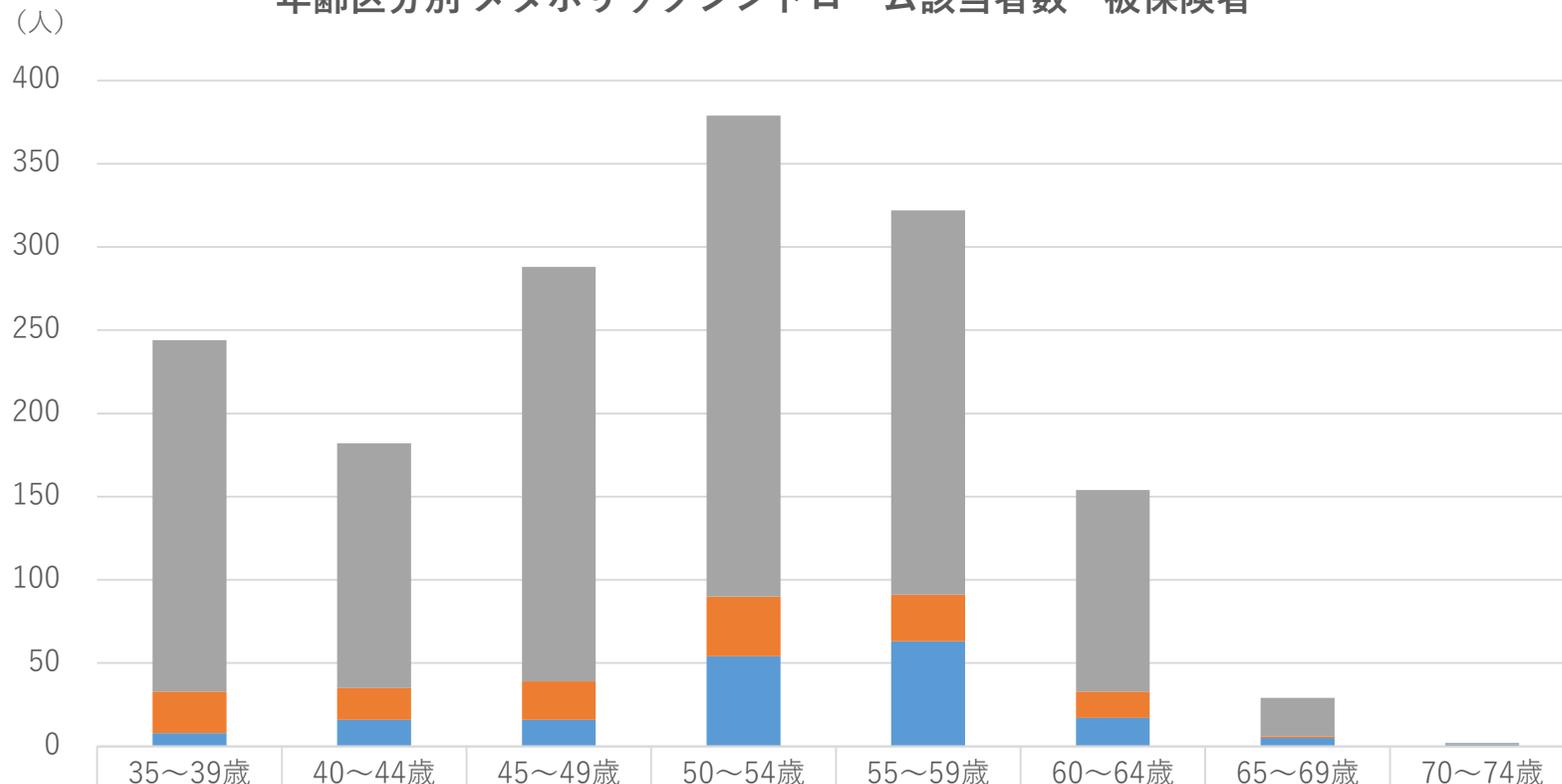
考えられる対策の方向性

- 生活習慣病の予防と早期発見に重点を置く。
- 特に高血圧症、糖尿病、高脂血症など、患者数の多い生活習慣病の改善のための施策を強化する。
- 肝機能障害への対応を検討する。
- 重症化予防では良好な状態コントロールの維持を図れるようにする。

実施する施策案

- 早期発見・早期治療のための施策
- 特定健診、人間ドック、各種がん検診
 - 健診受診後の有所見者への受診勧奨
- 生活習慣病改善のための施策
- 特定保健指導、重症化予防
 - 適度な運動の推奨
 - バランスの良い食事の推奨
 - 節酒の推奨、指導

年齢区分別 メタボリックシンドローム該当者数 被保険者



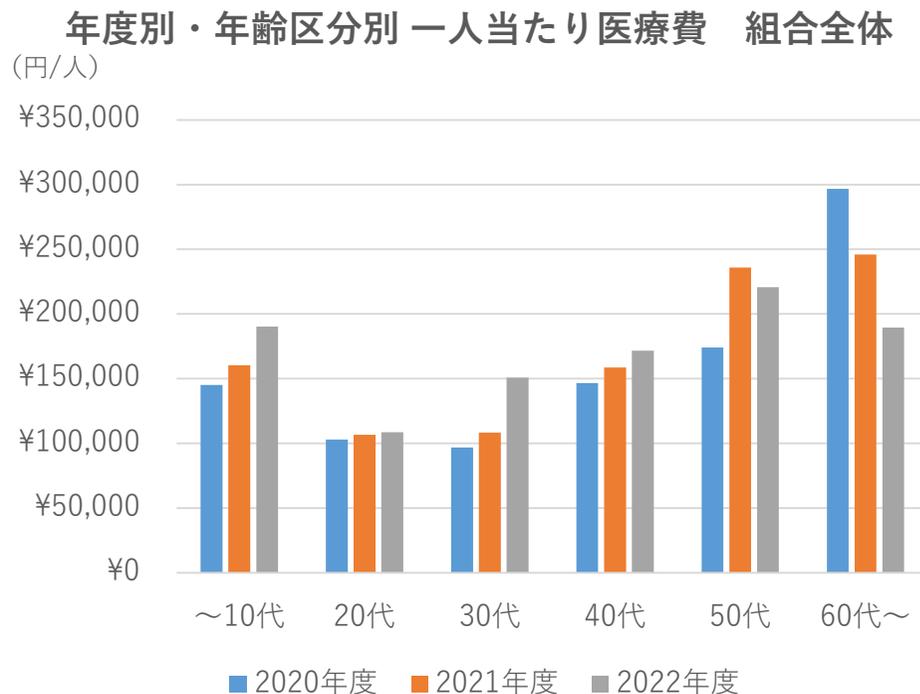
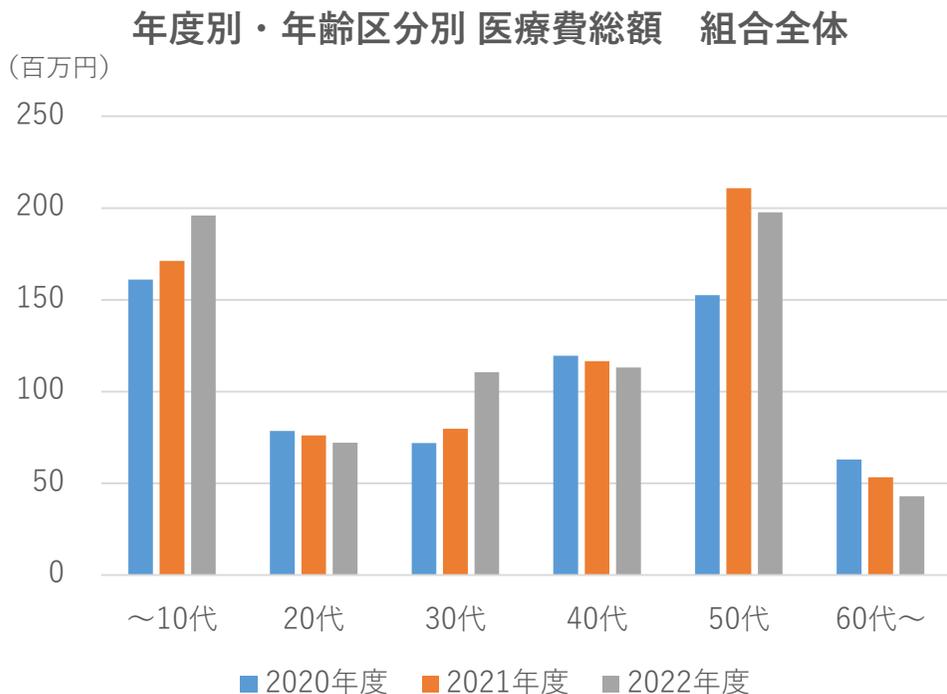
■ 非該当	211	147	249	289	231	121	23	1
■ 予備群該当	25	19	23	36	28	16	1	0
■ 該当	8	16	16	54	63	17	5	1

■ 該当 ■ 予備群該当 ■ 非該当

(人)

データ分析 年度別・年齢区分別 医療費総額／一人当たり医療費

関係者限



読み取れる特徴

- 医療費総額は50代と10代以下が突出している。次いで40代が高く、もっとも低いのは60代以上である。
- 一人当たり医療費は20代で一旦落ちるが年齢層が上がる毎に上昇傾向である。
- 60代以上の一人当たり医療費は2020年度以降下落している。その他の年代は概ね上昇傾向である。

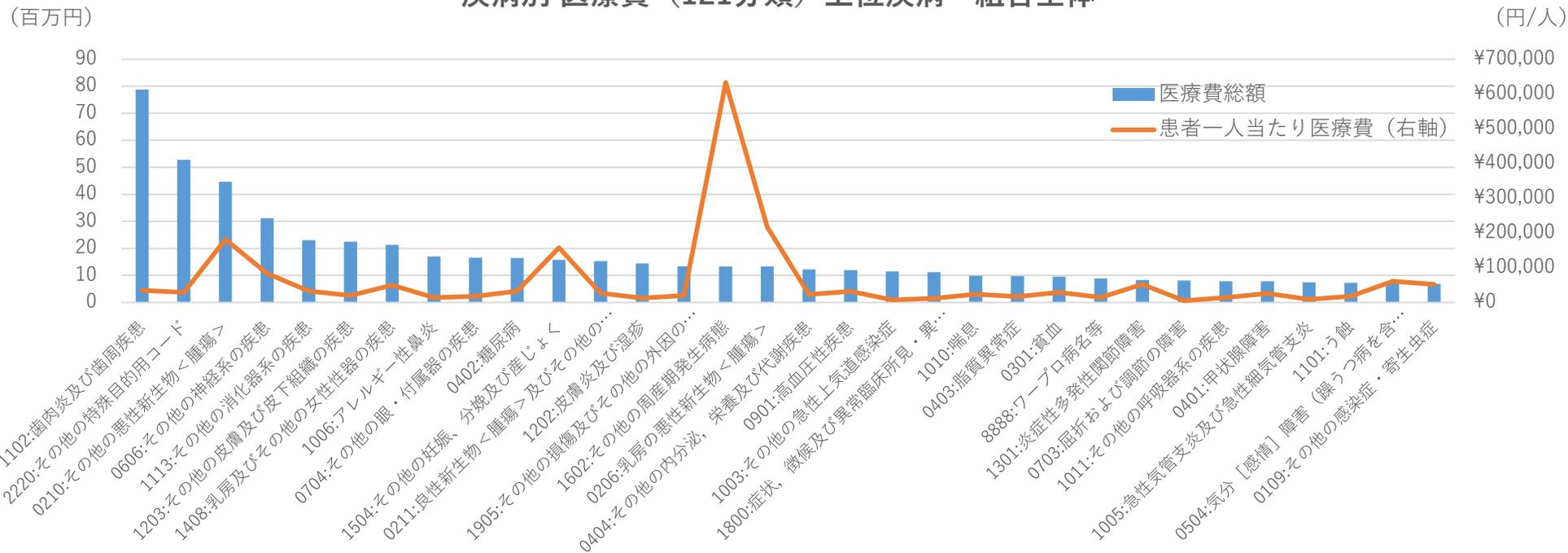
考えられる対策の方向性

- 医療費総額の高い10代以下、50代を中心に、医療費削減のための対策を進める。
- 一人当たりの医療費が高い疾病を対象とした重症化対策を検討する。
- 一人当たりの医療費の30代から50代の伸びから考えると、早めの予防対処を進める。

実施する施策案

- 各種健診（検診）、特定保健指導、重症化予防、予備群対策
- 全加入者向けに、生活習慣病予防に関する情報提供や教育／啓発、等
 - 10代以下の被扶養者向けに保護者を通じて適切な受診行動を促す情報の提供
 - かかりつけ医による適切な受診推奨

疾病別 医療費（121分類）上位疾病 組合全体



読み取れる特徴

- 医療費総額は歯科関連疾患（歯肉炎・歯周病）が最も多く、次いで各種悪性新生物、各種生活習慣病が多い。
- 医療費総額としては低いが、その他の周産期発生病態や乳がんなどは一人当たり医療費が高い。
- 医療費総額の第2位の「2220：その他～」は新型コロナ関連である。

考えられる対策の方向性

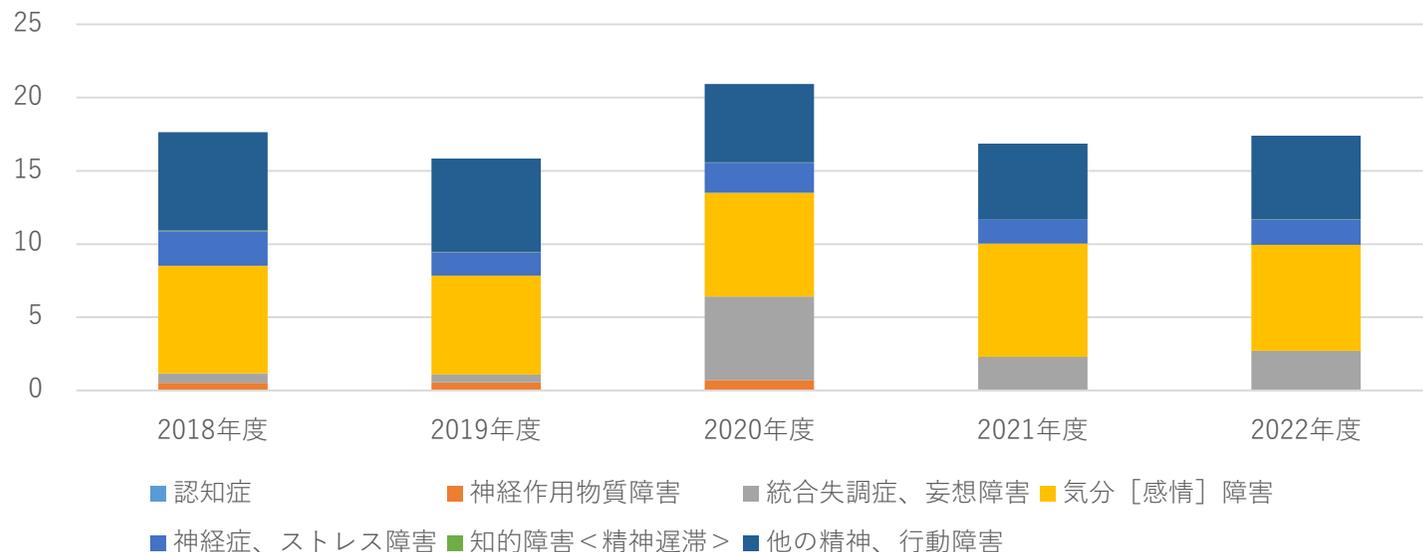
- 歯科は予防や健診を中心に対策する。
- 生活習慣病は既存の検診による早期発見、その後の特定保健指導、重症化予防を中心に対策する。
- 重症化予防では良好な状態コントロールの維持を図れるようにする。
- 周産期発生病態や乳がんといった女性の健康課題への対策を図る。

実施する施策案

歯科関連疾患への対策

- 歯周病健診に関する情報提供
- 歯磨きやフロス等の励行の推奨
- 検診などの基本的な事業
- 特定健診、人間ドック
- 女性の健康課題に関する情報提供
- 保健指導・状態コントロール
- 特定保健指導、重症化予防

(百万円) 年度別・メンタル系医療費 (うつ、統合失調症、不安障害) 組合全体

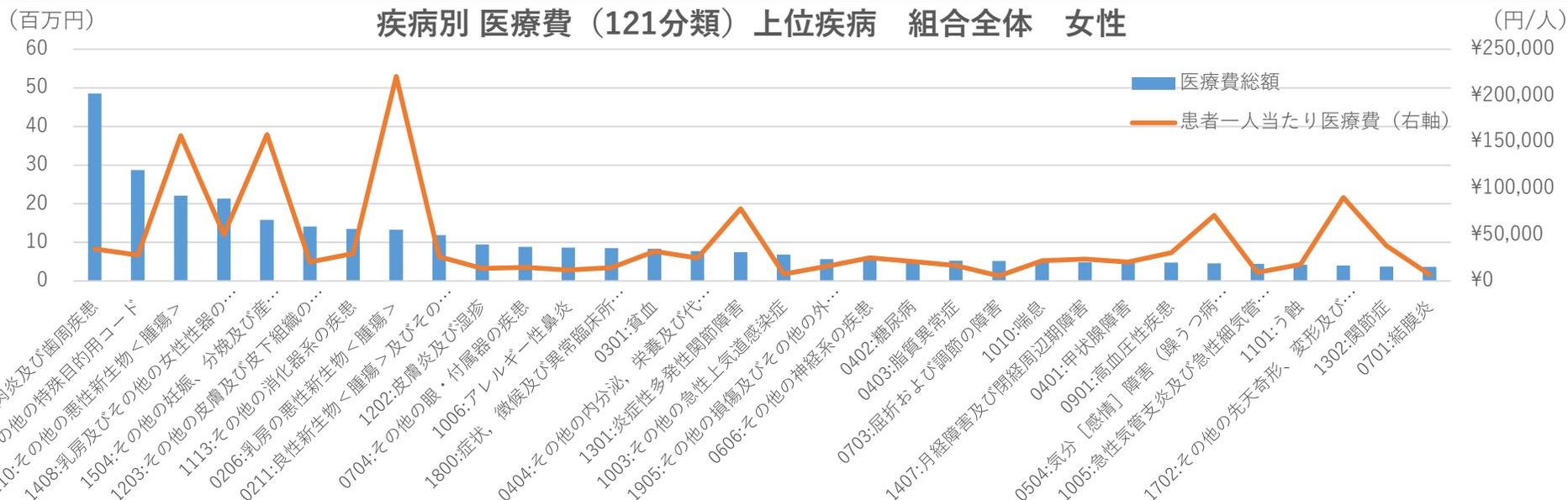


年度別・メンタル系患者数 (うつ、統合失調症、不安障害) 組合全体
(人) (%)

疾病名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018-2022年度比
認知症	1	0	1	4	2	200.0%
神経作用物質障害	12	15	16	4	5	41.7%
統合失調症、妄想障害	19	15	18	21	18	94.7%
気分 [感情] 障害	118	108	115	111	119	100.8%
神経症、ストレス障害	171	133	153	146	149	87.1%
知的障害 <精神遅滞>	6	5	6	3	3	50.0%
他の精神、行動障害	85	74	82	67	59	69.4%

データ分析 婦人科系疾患

関係者限

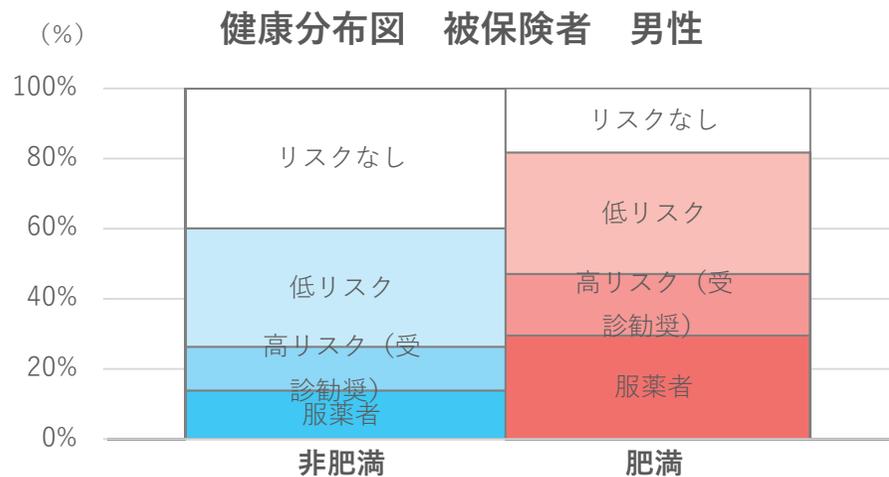


121分類	医療費総額	人数	患者一人当たり医療費
1102:歯肉炎及び歯周疾患	48,521,020	1,404	34,559
2220:その他の特殊目的用コード	28,734,970	1,023	28,089
0210:その他の悪性新生物<腫瘍>	22,091,260	141	156,676
1408:乳房及びその他の女性性器の疾患	21,317,100	426	50,040
1504:その他の妊娠、分娩及び産じょく	15,801,220	100	158,012
1203:その他の皮膚及び皮下組織の疾患	14,107,940	685	20,596
1113:その他の消化器系の疾患	13,470,040	454	29,670
0206:乳房の悪性新生物<腫瘍>	13,241,700	60	220,695
0211:良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	11,920,640	455	26,199
1202:皮膚炎及び湿疹	9,452,030	699	13,522
0704:その他の眼・付属器の疾患	8,822,630	598	14,754
1006:アレルギー性鼻炎	8,634,040	726	11,893
1800:症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8,525,330	592	14,401
0301:貧血	8,363,720	261	32,045
0404:その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	7,773,390	312	24,915
1301:炎症性多発性関節障害	7,481,440	96	77,932

121分類	医療費総額	人数	患者一人当たり医療費
1003:その他の急性上気道感染症	6,854,950	903	7,591
1905:その他の損傷及びその他の外因の影響	5,709,640	356	16,038
0606:その他の神経系の疾患	5,610,160	223	25,158
0402:糖尿病	5,499,020	260	21,150
0403:脂質異常症	5,291,500	316	16,745
0703:屈折および調節の障害	5,217,460	945	5,521
1010:喘息	5,019,140	230	21,822
1407:月経障害及び閉経周辺期障害	4,886,080	206	23,719
0401:甲状腺障害	4,756,910	233	20,416
0901:高血圧性疾患	4,753,280	155	30,666
0504:気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	4,607,200	65	70,880
1005:急性気管支炎及び急性細気管支炎	4,458,410	482	9,250
1101:う蝕	4,206,310	236	17,823
1702:その他の先天奇形、変形及び染色体異常	4,051,710	45	90,038
1302:関節症	3,729,470	98	38,056
0701:結膜炎	3,662,850	528	6,937

データ分析 BMI判定分布（健康分布図）

関係者限



リスク区分	非肥満	肥満
リスクなし	39.9%	18.3%
低リスク	33.8%	34.6%
高リスク（受診勧奨）	12.5%	17.6%
服薬者	13.8%	29.5%
合計	100.0%	100.0%

リスク区分	非肥満	肥満
リスクなし	60.0%	16.5%
低リスク	20.1%	26.0%
高リスク（受診勧奨）	6.5%	25.2%
服薬者	13.4%	32.3%
合計	100.0%	100.0%

読み取れる特徴

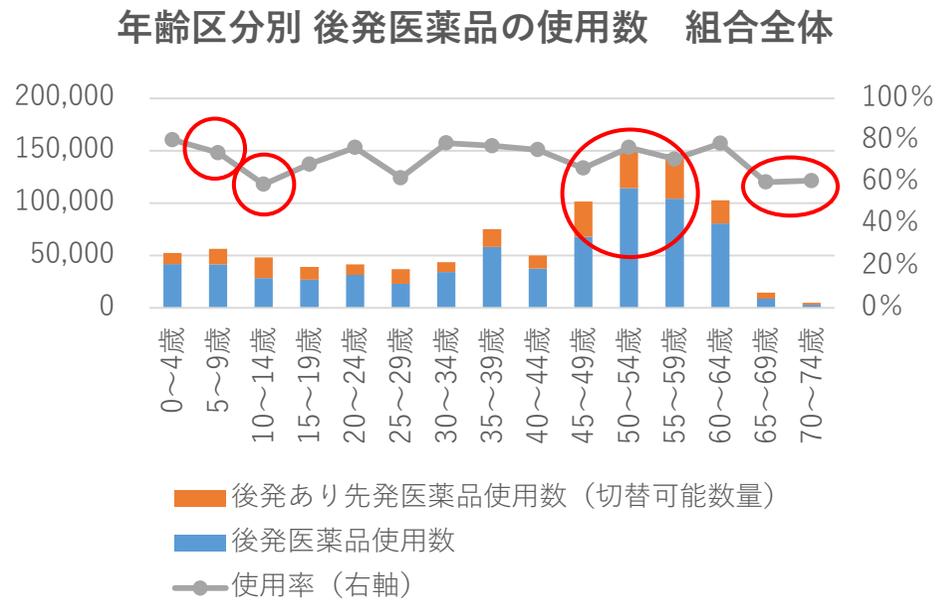
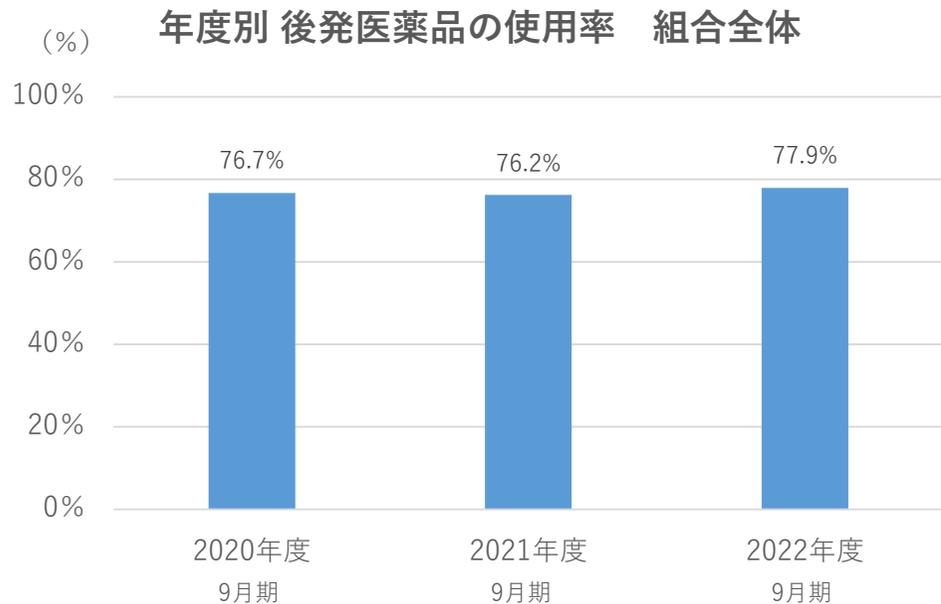
- 男性の肥満該当のうち、リスク保有者（低リスクと高リスク）は約52%いる。非肥満でもリスク保有者は約46%いる。
- 女性では、肥満該当のうちリスク保有者は約51%いる。非肥満該当でもリスク保有者は約26%いる。

考えられる対策の方向性

- 特定健診結果の分析を定期的に行い、肥満該当者およびリスク保有者の把握を行う。
- 肥満やリスク程度に応じた予防策、リスク低減の策を講じる。
- 非肥満であってもリスク保有者には、受診勧奨、治療・服薬の中断防止策を講じる。

実施策の例

- 定期的な特定健診結果の分析と課題の整理、対策の検討
- 季刊誌、セミナーなどの情報提供、体育奨励
- 特定保健指導、重症化予防などリスク階層のレベルに応じた介入
 - ✓ 受診勧奨、治療・服薬中断防止
 - ✓ 保健指導



※使用数量は調剤レセプトをもとに以下の式で計算
 使用数量 = 調剤情報レコードの [調剤数量] × 医薬品レコードの [使用量]
 ※2022年度のレセプト管理システムでの集計値

読み取れる特徴

- 後発医薬品使用率の目標80%は未達であるが達成まではあと僅かである。
- 10～14歳、65～74歳の後発医薬品の使用率は約60%と低い。
- 45～59歳を中心に幅広い年齢層で切替可能数量が多い。(今後の後発医薬品使用率向上に寄与できる伸び代部分)

考えられる対策の方向性

- 既存の施策は改善をしつつ維持する。
- 5～9歳の後発医薬品使用率は80%未満であるが、使用量自体が少ないために、他の世代へ施策で組合全体の後発医薬品使用率の目標達成を図る。
- 切替可能数量が多い45～50代への切替可能薬剤の情報提供を強化する。

実施する施策案

- 後発医薬品軽減額通知
- 後発医薬品希望シール配布
- 各種媒体での情報提供
 - 後発医薬品使用推奨
 - 安全性に関する情報提供
 - 薬剤費低減が保険料率の改善に繋がり、加入者の負担低減になることの啓発

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	イ, ウ, エ, オ, カ, キ	<ul style="list-style-type: none"> 被保険者の特定健診受診率は90%以上であるが被扶養者の特定健診受診率は70%代であり、目標の90%には達していない。 特定保健指導実施率は、被保険者20%代、被扶養者は10%未満といずれも目標60%を大幅に下回っている。 生活習慣病については、医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。高脂血症、肝機能障害の患者数は増加率が高い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 被扶養者の特定健診受診率を向上させるための施策を検討する。 イントラネットを通じ被保険者に意識づけ 電話による受診勧奨 事業主から被保険者を通じて受診勧奨 パンフレットの作成、ハガキの送付、等 特定保健指導への参加勧奨策の実施。 特定保健指導への理解を深めるような効果的な案内の実施 曜日、時間帯の拡大など、指導を受けやすい環境整備 事業主をつうじての参加勧奨 対象者個別への電話勧奨 生活習慣病改善のための施策の実施 特定保健指導の積極的な実施 適度な運動の推奨 バランスの良い食事の推奨 節酒、禁煙の推奨、指導 	✔
2	サ	<ul style="list-style-type: none"> 女性の医療費の内、単独で最も高額な疾病は【がん検診で早期発見可能な疾患】である「乳房の悪性新生物」である。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 成人の被扶養者は女性配偶者が殆どであり、40～50歳代が多い為、乳がん対策として乳がん検診の受診率を高めるとともに、検診が効果的である子宮がん検診を実施する必要がある。 被扶養者に対する特定健診として、乳がん・子宮がん検診を必須項目とした人間ドック受診を推進する。 	
3	ス	<ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品利用率の目標80%は未達であるが、もう少しで達成できるところまできている。 10～14歳、65～74歳の後発医薬品の利用率は約60%と低い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 後発医薬品の差額通知発送等を通じ、調剤医療費の適正化を図る。 安全性に関する情報提供。 	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> 被保険者の年齢階層は、男性は50歳代が多く、女性は30歳代が多い。 当健保組合には、医療専門職が不在である。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 加入者が点在しており、事業主との協働（コラボヘルス）が重要である。 40歳代の男性を中心に、生活習慣病対策に注力すべきである。 予防医学的な知識・経験が必要な際は、事業主専門職や委託事業者の活用を検討する。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
-----	----	--	--------------

1

- ・ウォーキング等の健康増進効果に対する理解（周知）不足がある。
- ・被扶養者の特定健診に対する理解（周知）不足がある。
- ・季節性インフルエンザへの予防意識を高める必要がある。



- ・健康保険冊子やホームページ等の情報提供方法等を工夫する。
- ・社内イントラネット等の活用方法を検討する。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

- ・被保険者への生活習慣病対策が急務であり、事業主や産業保健スタッフと協働して、情報提供や運動促進の取り組みを全体に向けて実施する。
- ・糖尿病、高血圧性疾患、内分泌・栄養・代謝疾患等は、ウォーキング等の生活習慣病対策が効果的な疾患であり、将来的な医療費削減を目指す。
- ・若年層（35～39歳）のも健康意識を高め、各自の健康状態を把握・管理し肥満率減少につなげる。
- ・女性の医療費で高額となる「乳房の悪性新生物」等は、がん検診により早期発見治療が必要である。

事業全体の目標

- ・生活習慣病対策として有効な「ウォーキングイベント」を事業者や健保連香川連合会と協働し、長期にわたり実施する。
- ・被保険者および被扶養者に人間ドックを実施しているが、特に若年層（35～39歳）への実施および女性の乳がん検診等の受診をより推進し、個々の検診データに基づく健康管理を図る。

事業の一覧

職場環境の整備

予算措置なし	健康管理委員の委嘱
--------	-----------

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	ホームページ運営
--------	----------

保健指導宣伝	健康保険冊子
--------	--------

個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
----------	------------

特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
----------	------------

特定保健指導事業	特定保健指導
----------	--------

保健指導宣伝	ウォーキングイベント等健康イベント
--------	-------------------

保健指導宣伝	健康者表彰
--------	-------

保健指導宣伝	育児指導誌
--------	-------

保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
--------	------------

疾病予防	人間ドック
------	-------

疾病予防	脳ドック
------	------

疾病予防	家庭の医学 電話・オンライン健康相談
------	--------------------

疾病予防	季節性インフルエンザ対策
------	--------------

疾病予防	花粉症対策グッズ
------	----------

疾病予防	救急箱配布
------	-------

体育奨励	プール・スケート利用
------	------------

その他	契約保養所
-----	-------

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		
アウトプット指標												アウトカム指標								
職場環境の整備																				
予算措置なし	1	既存	健康管理委員の委嘱	全て	男女	18～64	被保険者	3	ス	-	ア	-	0	-	-	-	-	-		
													【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	【目的】各拠点ごとに健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。 【概要】年2回、定例人事異動時に見直しにより任命し、内容等の周知を行う。	各拠点毎に健康管理委員を配置し、被保険者や被扶養者の健康保持、増進を図る。	該当なし
内容周知回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)職務内容等についての周知を行う。												健康管理委員は、各拠点毎に配置できており、アウトカム設定はしない。(アウトカムは設定されていません)								
加入者への意識づけ																				
保健指導宣伝	2	既存	ホームページ運営	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ,ス	-	シ	-	264	-	-	-	-	-		
													【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】WEB上に当健康保険組合のホームページを運営	当健保組合の状況等の理解を深める。	該当なし
ホームページ運営(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)・制度変更等への適切な修正・更改(年2回以上)												ホームページ運営については、インターネット環境であれば、各自が任意で閲覧等が可能であり、アウトカム設定はしない。(アウトカムは設定されていません)								
2	既存	健康保険冊子	全て	男女	18～64	基準該当者	1	ス	-	シ	-	230	-	-	-	-	-	-		
												【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】当健康保険組合の健康保険を中心に社会保険制度について平易に解説した冊子「社会保険のしおり」を配布	当健保組合の健康保険等に関する理解を深める。	該当なし	
健康保険冊子の備置率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)・各拠点(本部、支店)に備置(備置率 100%)												健康保険冊子の配布については、ホームページや行内イントラネット等もあるため、アウトカム設定はしない。(アウトカムは設定されていません)								
新規の被保険者への配布率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)・新規の被保険者への配布(配布率 100%)																				
個別の事業																				
特定健康診査事業	3	既存(法定)	特定健診(被保険者)	全て	男女	40～74	被保険者	3	イ,ウ	-	カ	-	74,473	-	-	-	-	-		
													【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	人間ドック受診による特定健診により、生活習慣の改善意欲を向上させ、健康の維持・増進を図る。	・被保険者の特定健診受診率は90%以上であるが被扶養者の特定健診受診率は70%代であり、目標の90%には達していない。 ・特定保健指導実施率は、被保険者20%代、被扶養者は10%未満といずれも目標60%を大幅に下回っている。 ・生活習慣病については、医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。高脂血症、肝機能障害の患者数は増加率が高い。 ・女性の医療費の内、単独で最も高額な疾病は【がん検診で早期発見可能な疾患】である「乳房の悪性新生物」である。
特定健診の受診率(【実績値】97.8% 【目標値】令和6年度：98.0% 令和7年度：98.0% 令和8年度：98.5% 令和9年度：98.5% 令和10年度：99.0% 令和11年度：99.0%)人間ドック受診を推進する。行内イントラネット等での周知を行う。												生活習慣の改善意欲がある人の比率(【実績値】75.2% 【目標値】令和6年度：78.0% 令和7年度：80.0% 令和8年度：82.0% 令和9年度：84.0% 令和10年度：86.0% 令和11年度：88.0%)生活習慣の改善意欲がある人の比率を増やす。								
												15,797								

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		
アウトプット指標												アウトカム指標								
3	既存(法定)	特定健診(被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者	1	イ,ウ	-	カ	-	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	【目的】加入者の健康維持と健康状態の把握 【概要】がん検査を含む人間ドック受診により実施。メタボリックシンドロームに注目した健康状態の把握およびリスク者のスクリーニング	人間ドック受診による特定健診により、生活習慣の改善意欲を向上させ、健康の維持・増進を図る。	・被保険者の特定健診受診率は90%以上であるが被扶養者の特定健診受診率は70%代であり、目標の90%には達していない。 ・特定保健指導実施率は、被保険者20%代、被扶養者は10%未満といずれも目標60%を大幅に下回っている。 ・生活習慣病については、医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。高脂血症、肝機能障害の患者数は増加率が高い。 ・女性の医療費の内、単独で最も高額な疾病は【がん検診で早期発見可能な疾患】である「乳房の悪性新生物」である。	
特定健診の受診率(【実績値】71.0% 【目標値】令和6年度：73.0% 令和7年度：75.0% 令和8年度：75.0% 令和9年度：78.0% 令和10年度：80.0% 令和11年度：80.0%)人間ドック受診を推進する。行内イントラネット等での周知を行う。												生活習慣の改善意欲がある人の比率(【実績値】82.6% 【目標値】令和6年度：84.0% 令和7年度：86.0% 令和8年度：88.0% 令和9年度：90.0% 令和10年度：92.0% 令和11年度：94.0%)生活習慣の改善意欲がある人の比率を増やす。								
4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	イ,ウ,サ	-	ア,ウ	-	【目的】特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保持者の生活習慣、健康状態の改善。 【概要】メタボリックシンドロームの減少を目的にアウトソーシングにて実施。	目的 特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保持者の生活習慣、健康状態の改善。 【概要】メタボリックシンドロームの減少を目的にアウトソーシングにて実施。	生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善を図り、メタボリックシンドロームの減少を目指す。	・被保険者の特定健診受診率は90%以上であるが被扶養者の特定健診受診率は70%代であり、目標の90%には達していない。 ・特定保健指導実施率は、被保険者20%代、被扶養者は10%未満といずれも目標60%を大幅に下回っている。 ・生活習慣病については、医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。高脂血症、肝機能障害の患者数は増加率が高い。					
特定保健指導の終了者の比率(【実績値】40% 【目標値】令和6年度：50.0% 令和7年度：50.0% 令和8年度：55.0% 令和9年度：55.0% 令和10年度：60.0% 令和11年度：60.0%)指導対象者への電話による勧誘(行内イントラネット利用を含む)を行い、実施率を向上させる。(非希望者への電話勧奨を含む)												特定保健指導対象者の減少率(【実績値】24.0% 【目標値】令和6年度：27.5% 令和7年度：30.0% 令和8年度：32.5% 令和9年度：35.0% 令和10年度：37.5% 令和11年度：40.0%)特定保健指導により、特定保健対象者を減少させる								
2,5	既存	ウォーキングイベント等健康イベント	全て	男女	18～74	被保険者	2	ア	-	ア	-	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	【目的】加入者への運動習慣の定着、健康づくり機会の提供、生活習慣の改善提案。 【概要】事業主及び香川連合会が実施している健康増進事業の一環。当健保組合は参加者拡大とモチベーションアップ維持を支援。	生活習慣病対策として有酸素運動であるウォーキングを習慣として定着化させる。また、毎日の生活の中で気軽にできるメニューを提示して、生活習慣の改善を図る。	・被保険者の特定健診受診率は90%以上であるが被扶養者の特定健診受診率は70%代であり、目標の90%には達していない。 ・特定保健指導実施率は、被保険者20%代、被扶養者は10%未満といずれも目標60%を大幅に下回っている。 ・生活習慣病については、医療費、患者数ともに高脂血症、糖尿病、高血圧症が多い。高脂血症、肝機能障害の患者数は増加率が高い。	
イベント実施数(【実績値】14回 【目標値】令和6年度：15回 令和7年度：16回 令和8年度：17回 令和9年度：18回 令和10年度：19回 令和11年度：20回)												延べイベント参加人数(【実績値】3,390人 【目標値】令和6年度：3,500人 令和7年度：3,550人 令和8年度：3,600人 令和9年度：3,650人 令和10年度：3,700人 令和11年度：3,750人)-								
5	既存	健康者表彰	全て	男女	0～74	基準該当者	1	ス	-	シ	-	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	【目的】加入者の健康維持・増進への意識向上。 【概要】1年間の健康保険証未使用者に対して健康者として表彰。	加入者の健康維持・増進への意識向上を図る。	該当なし	
賞品数(【実績値】4個 【目標値】令和6年度：4個 令和7年度：4個 令和8年度：4個 令和9年度：4個 令和10年度：4個 令和11年度：4個)・健康に関する賞品リストから選択させ、健康増進に役立てる。(賞品数 3種類以上)												表彰対象者の比率(【実績値】6% 【目標値】令和6年度：8% 令和7年度：10% 令和8年度：10% 令和9年度：10% 令和10年度：12% 令和11年度：12%)表彰対象者の比率を増加させ、健康増進に役立てる。								
5	既存	育児指導誌	全て	女性	18～64	基準該当者	1	ス	-	シ	-	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	【目的】情報発信、育児情報の提供。 【概要】出産後、約2年間、育児指導の月刊誌・季節誌等を送付。	育児情報の提供を行い、健やかな育児増進につなげる。	該当なし	
送付率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												育児指導誌の送付は、対象者(ご子息のご誕生があった者)が限定され、受け身でありアウトカム設定はしない。(アウトカムは設定されていません)								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
配布率(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%) ・新入行員への配布 (配布率 100%)												救急箱配布は、新入行員に1回のみ限定しているため、アウトカム設定はしない。 (アウトカムは設定されていません)							
体育奨励	8	既存	プール・スケート利用	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア	-	シ	-	300	-	-	-	-	加入者の健康増進やリフレッシュに役立てる。	該当なし
													【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】夏季プールと冬季スケート場の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】夏季プールと冬季スケート場の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】夏季プールと冬季スケート場の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】夏季プールと冬季スケート場の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】夏季プールと冬季スケート場の利用。費用を一部補助。		
周知回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)・周知改善による利用促進(回数 2回) ・利用券の運用方法の改善を検討する。												プール・スケートの利用については、各自の任意であり、代替手段も普及しており、アウトカム設定はしない。 (アウトカムは設定されていません)							
その他	8	既存	契約保養所	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	-	シ	-	230	-	-	-	-	加入者の健康増進やリフレッシュに役立てる。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
													【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】契約した宿泊施設等の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】契約した宿泊施設等の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】契約した宿泊施設等の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】契約した宿泊施設等の利用。費用を一部補助。	【目的】加入者の健康増進やリフレッシュ。 【概要】契約した宿泊施設等の利用。費用を一部補助。		
利用件数(【実績値】43件 【目標値】令和6年度：50件 令和7年度：50件 令和8年度：50件 令和9年度：50件 令和10年度：50件 令和11年度：50件)周知等により宿泊施設等の利用を図る。												契約保養所の利用については、各自の任意であり、代替手段も普及しており、アウトカム設定はしない。 (アウトカムは設定されていません)							

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施
ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協議会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築
ケ. 保険者内の専門職の活用(共同設置保健師等を含む) コ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) サ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) シ. その他